



Bank of Japan Nagasaki Branch

長崎県の金融経済概況

(2018年3月)

【概況】

長崎県の景気は、緩やかな回復を続けている。

最終需要面をみると、公共投資は、大型案件の発注増等から、増加しつつある。設備投資は、持ち直しの動きがみられる。個人消費は、全体として底堅く推移している。観光関連は、基調として堅調に推移している。住宅投資は、緩やかな増加基調を続けている。

生産は、持ち直しの動きが続いている。また、雇用・所得環境をみると、労働需給は改善が続いており、人手不足感が強まっている。雇用者所得は持ち直している。消費者物価は、前年を上回った。

3月短観における業況判断D.I.（全産業）は、前回調査からほぼ横ばいとなった（12月短観：15→3月短観：14）。

この間、中小企業の景況感は、弱い動きとなっている。

【本件に関する問い合わせ先】

日本銀行長崎支店総務課

850-8645 長崎市炉粕町32番地

TEL：095-820-6110 FAX：095-820-0299

本資料は当店ホームページ（<http://www3.boj.or.jp/nagasaki/>）にも掲載しています。

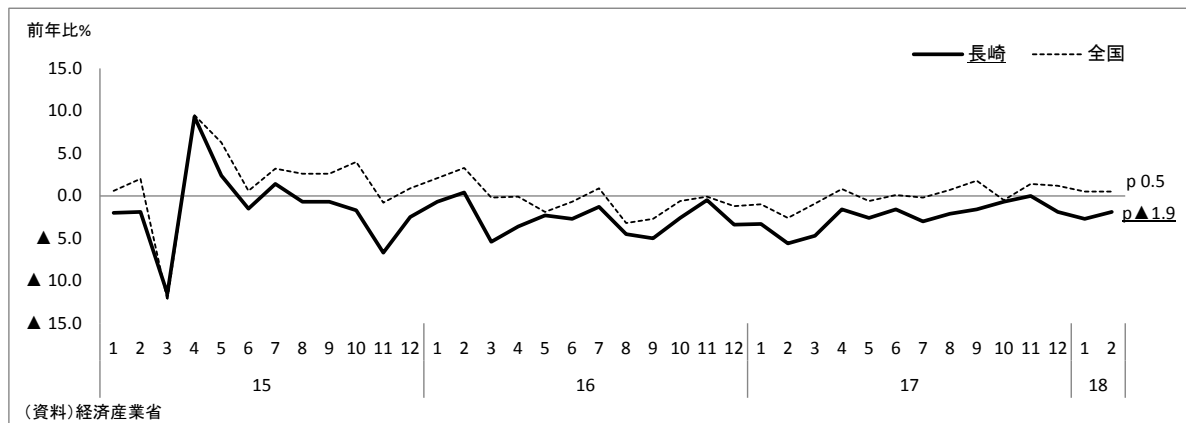
1. 経済動向

(1) 個人消費

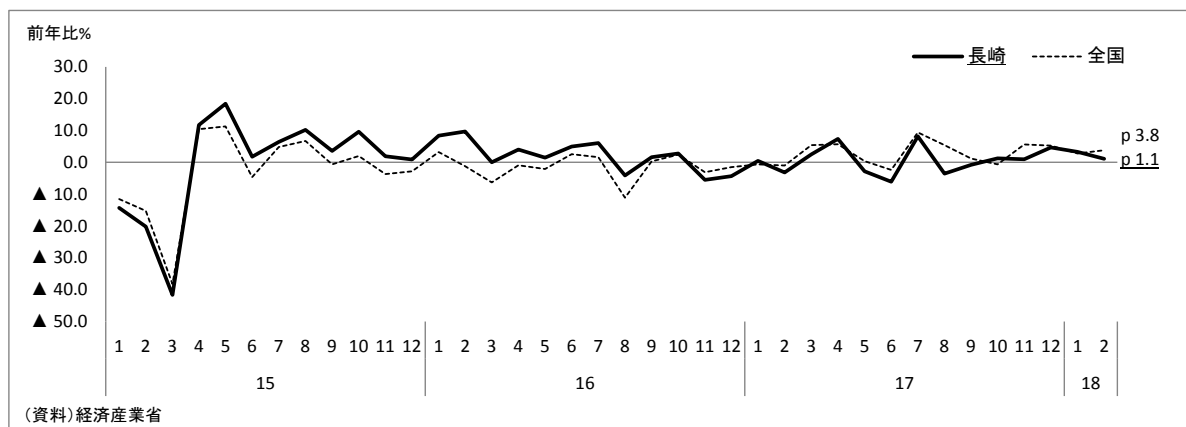
個人消費は、全体として底堅く推移している。

商業動態統計(2月)は、百貨店・スーパーで前年を下回ったものの、コンビニエンスストア、ドラッグストアが堅調であるほか、寒波の影響等から家電販売も前年を上回っているなど、総じて底堅い動きとなっている。乗用車の新車登録台数(同)は、新型車投入効果の一巡等から、減少した。

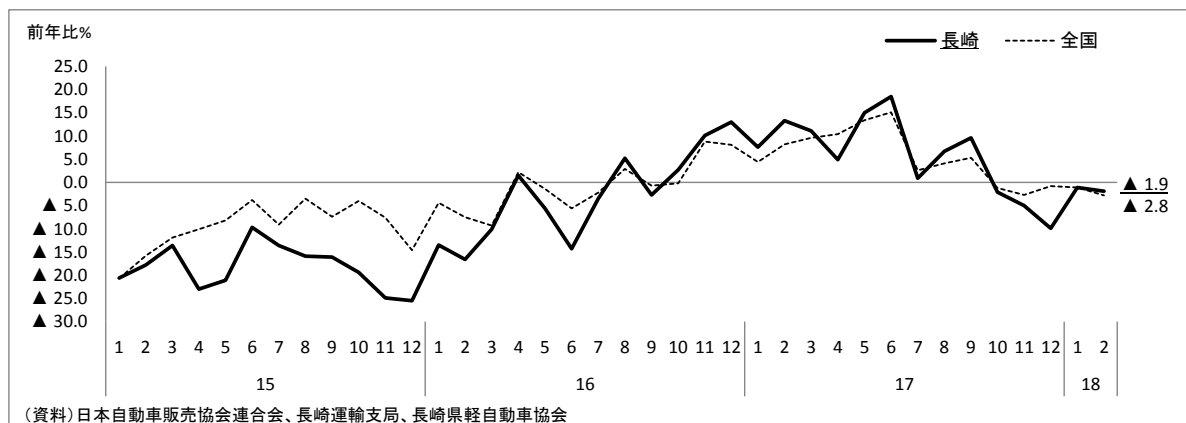
【百貨店・スーパー販売額】



【家電大型専門店販売額】



【乗用車新車登録台数<含む軽乗用車>】

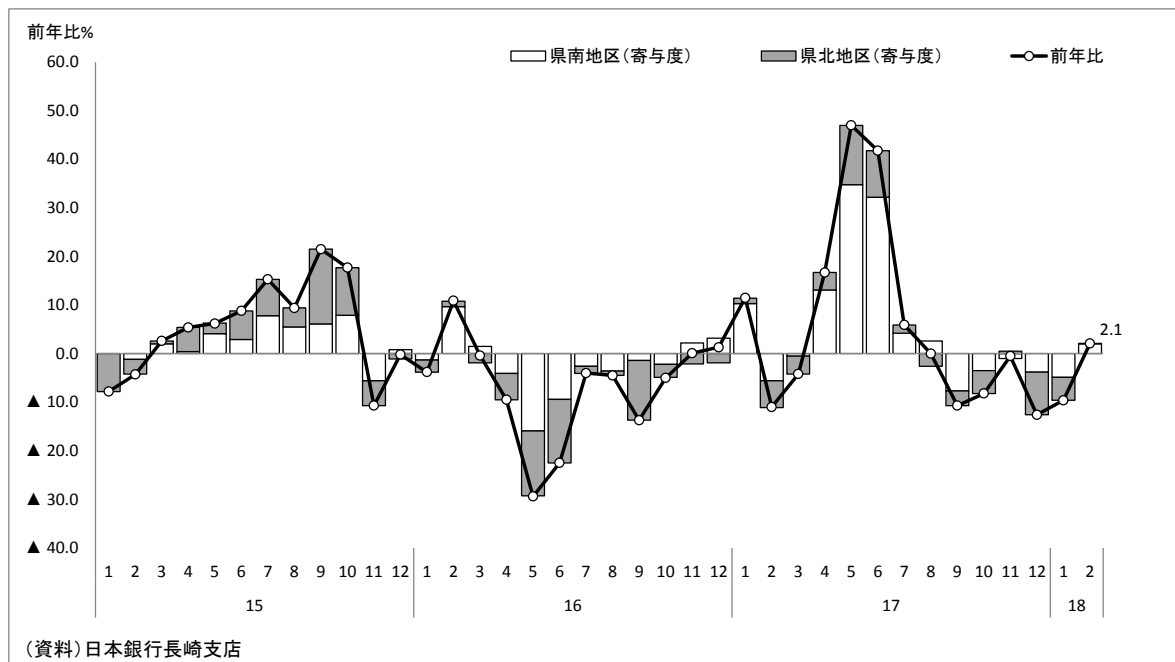


(2) 観光

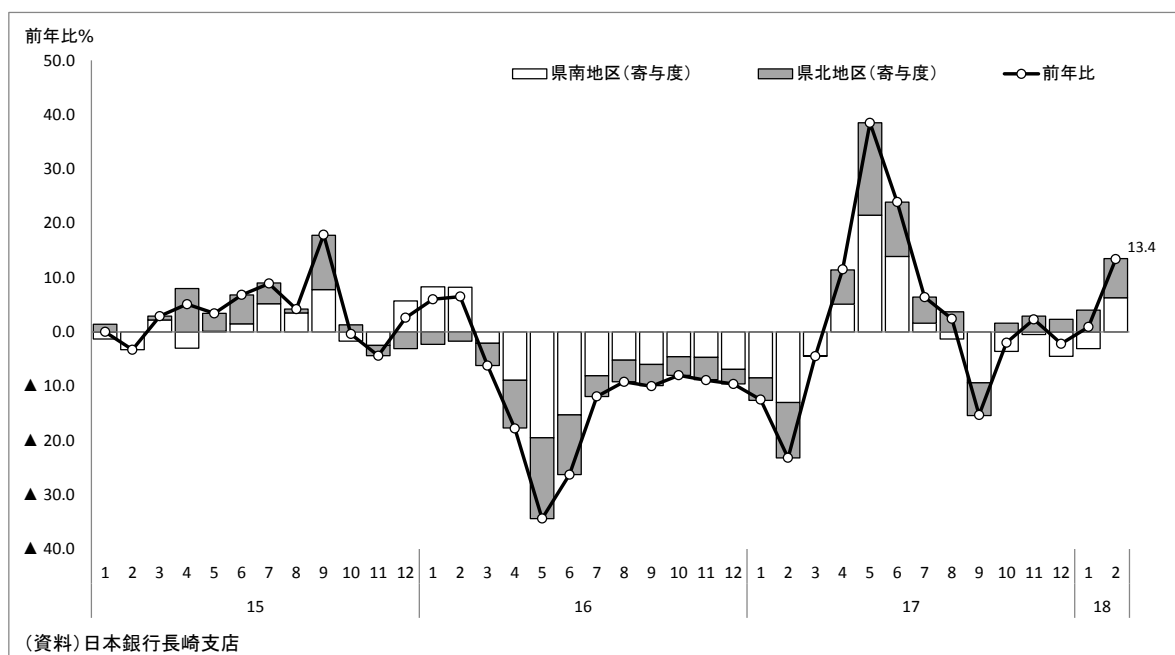
観光関連は、基調として堅調に推移している。

観光関連施設等では、需要喚起に向けた集客施策に注力しているほか、国際クルーズ船を利用した訪日客数も増加しているなど、観光は、堅調に推移している。足もとの主要観光施設入場者数（2月）および主要ホテル・旅館宿泊者数（同）は、大型イベントの集客好調による波及効果がみられたこと等から、前年を上回った。

【県内主要観光施設入場者数】



【県内主要ホテル・旅館宿泊者数】

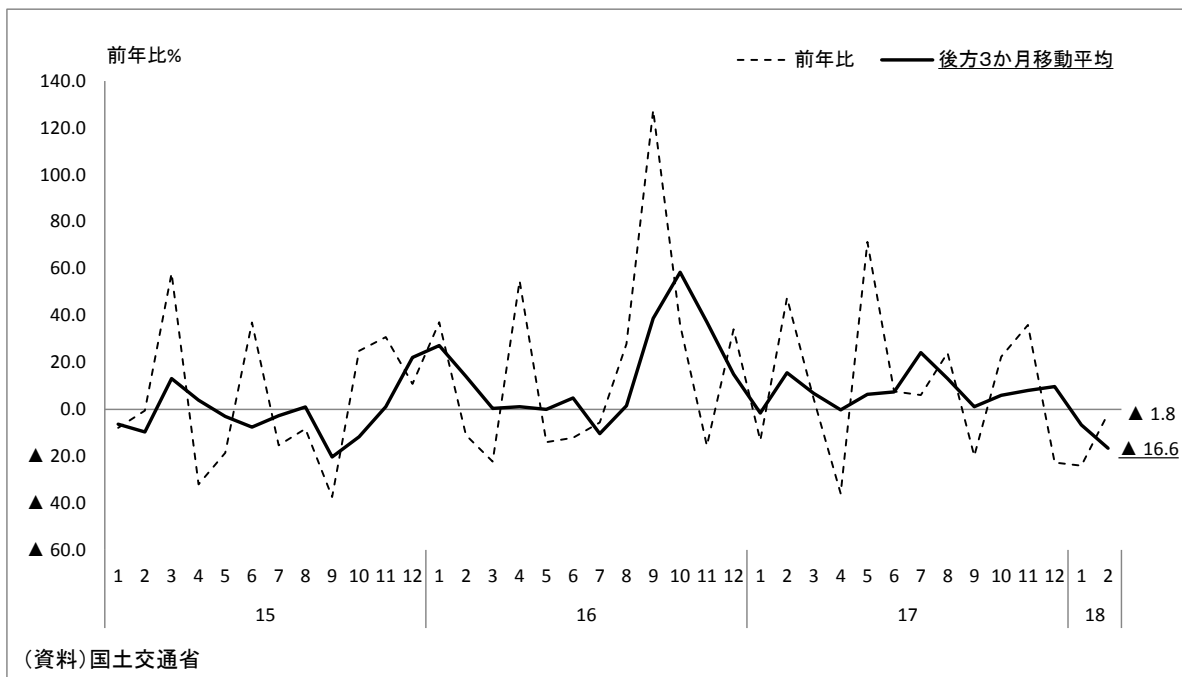


(注) ・集計対象先の見直しにより、15/12月以前の計数は44先ベース、16/1月～17/3月の計数は43先ベース、17/4月以降の計数は42先ベース。

(3) 住宅投資

住宅投資は、緩やかな増加基調を続けている。
新設住宅着工戸数(2月)は、持家を中心に減少した。

【新設住宅着工戸数】

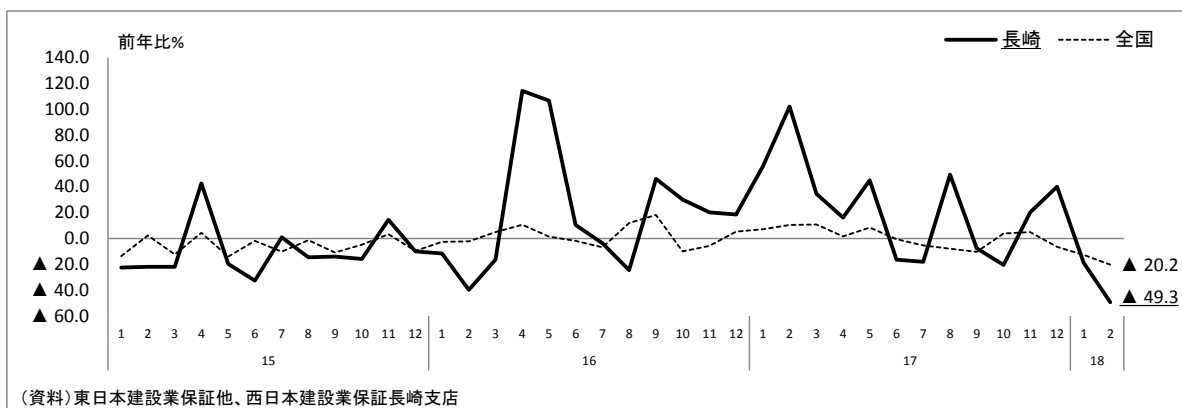


(4) 公共投資

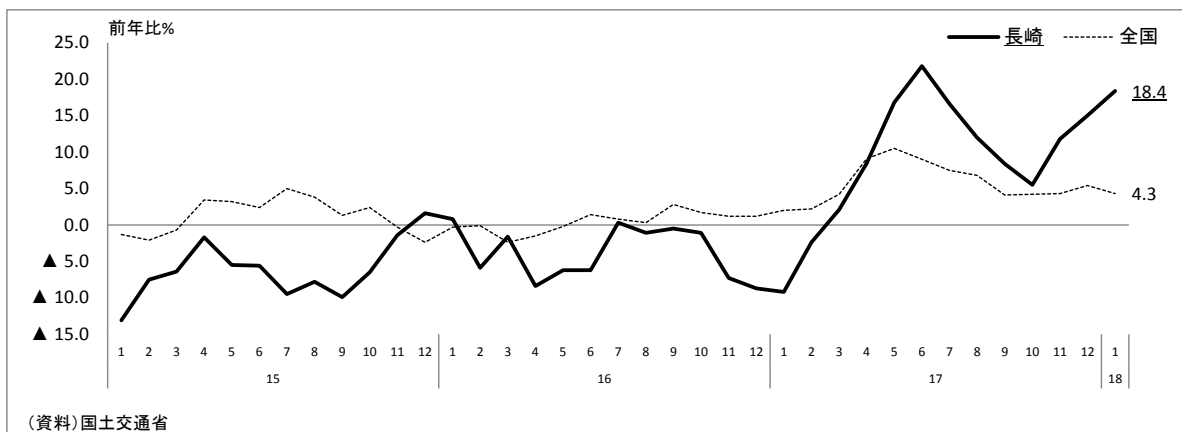
公共投資は、大型案件の発注増等から、増加しつつある。

公共工事請負金額(2月)は減少したものの、建設工事出来高(1月)は増加した。
生コン出荷量は、足もとやや弱めの動きとなっている。

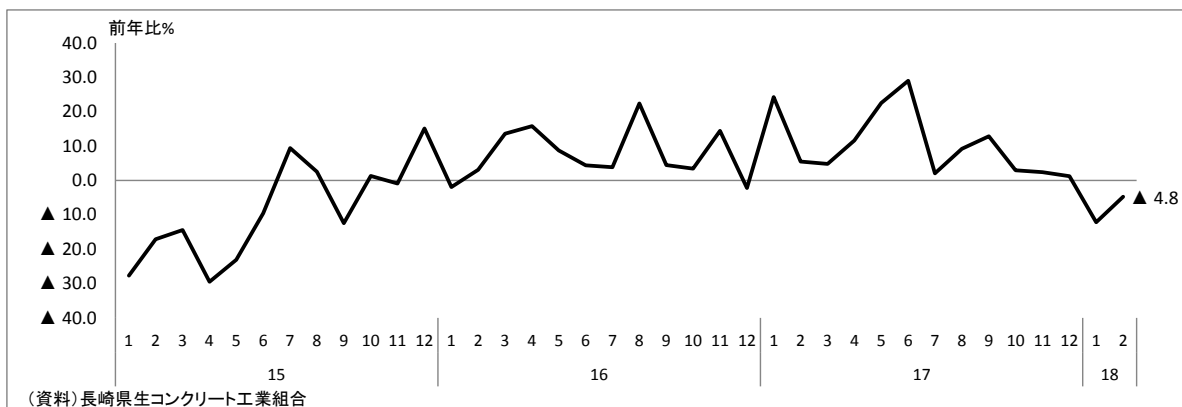
【公共工事請負金額】



【建設工事出来高】



【生コンクリート出荷量】



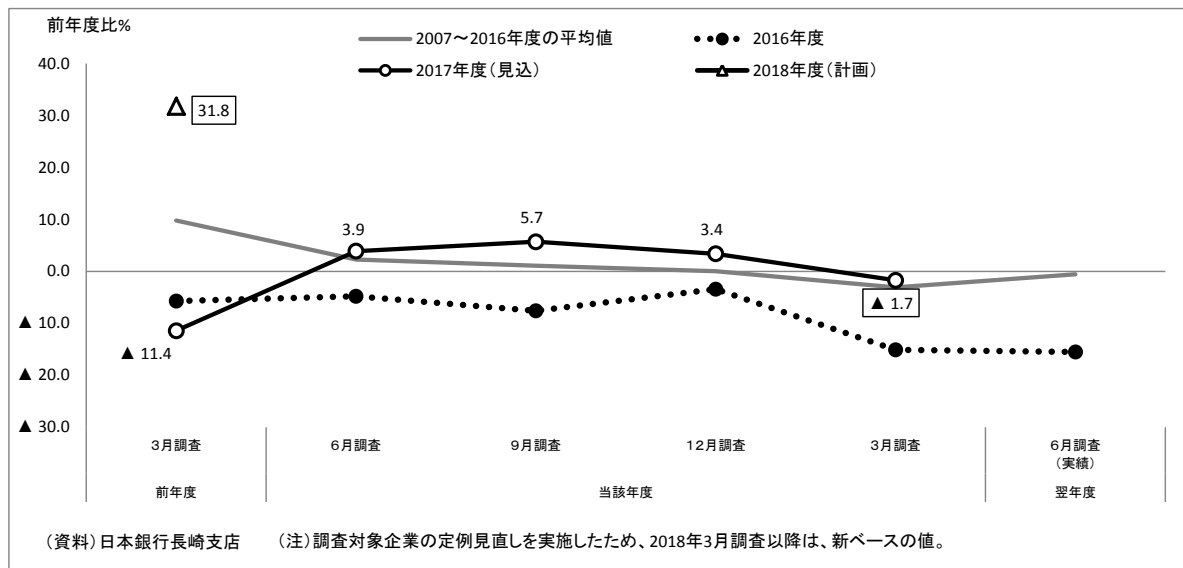
(5) 設備投資

持ち直しの動きがみられる。

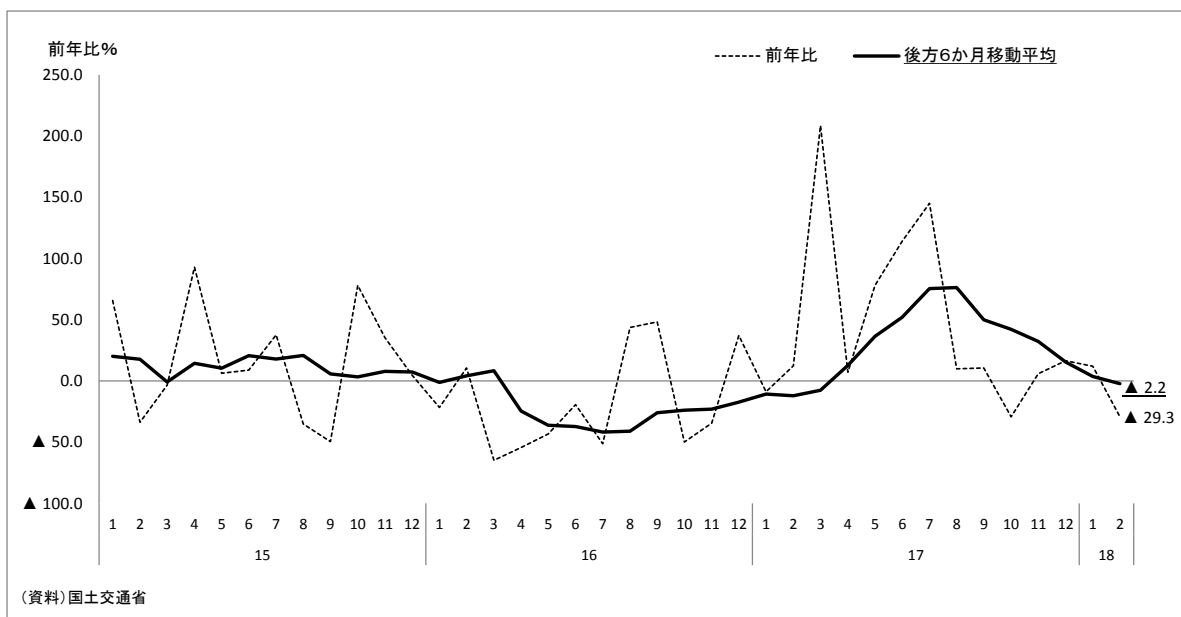
建築物着工床面積（2月、民間非居住用）は前年を下回った。

2017年度設備投資（2018年3月短観）は、製造業において投資の後ずれの動きがみられたことから、前回調査（12月）比、下方修正され、製造業を中心に全体でも前年度を下回る見込みとなった。2018年度設備投資計画は、製造業・非製造業ともに、前年度を上回る計画となっている。

【短観（長崎県分）・設備投資額】



【建築物着工床面積（民間非居住用）】



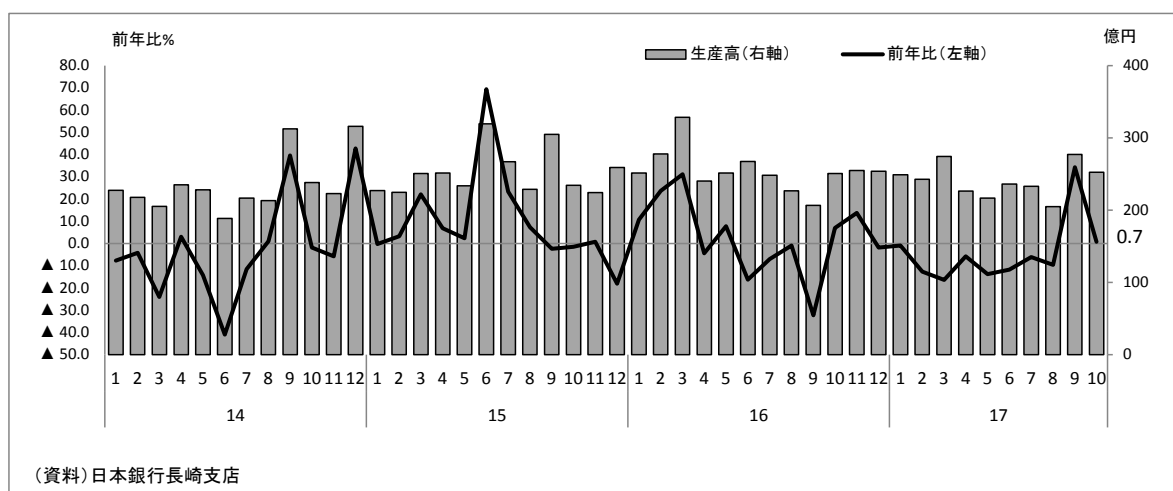
(6) 生産

持ち直しの動きが続いている。

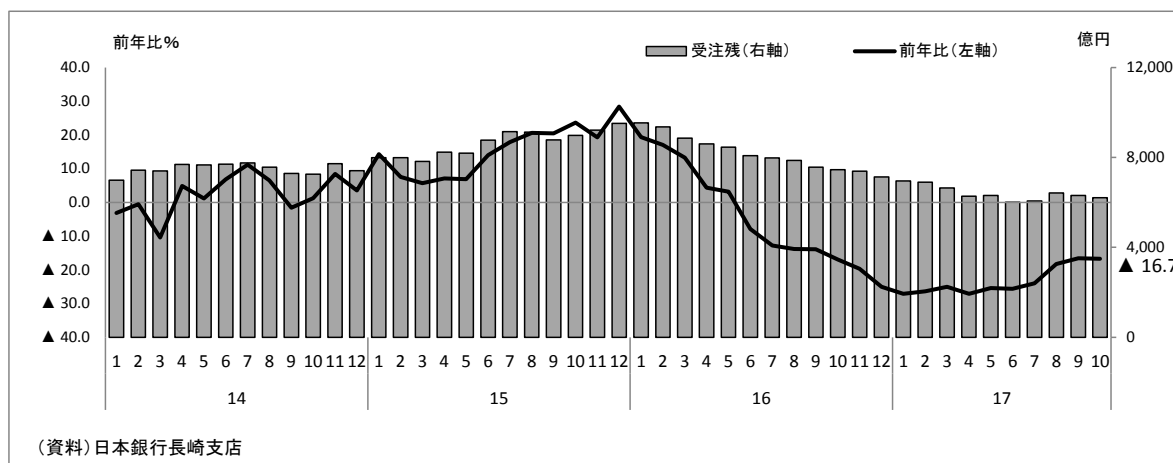
(業種別生産動向)

業種		生産動向
造船	大手・中堅造船	操業度をやや引き下げている。
	中小造船	更新需要等を背景に高水準の受注残となっており、高操業が続いている。
機械・重電	原動機	高操業が続いている。
	大・中型モーター	堅調な国内設備投資需要を背景に、生産が増加している。
	冷熱機器	国内向け需要の回復を背景に、下げ止まっている。
電子部品等		半導体の用途拡大を背景に、増加基調にある。
陶磁器		弱めの動きとなっている。

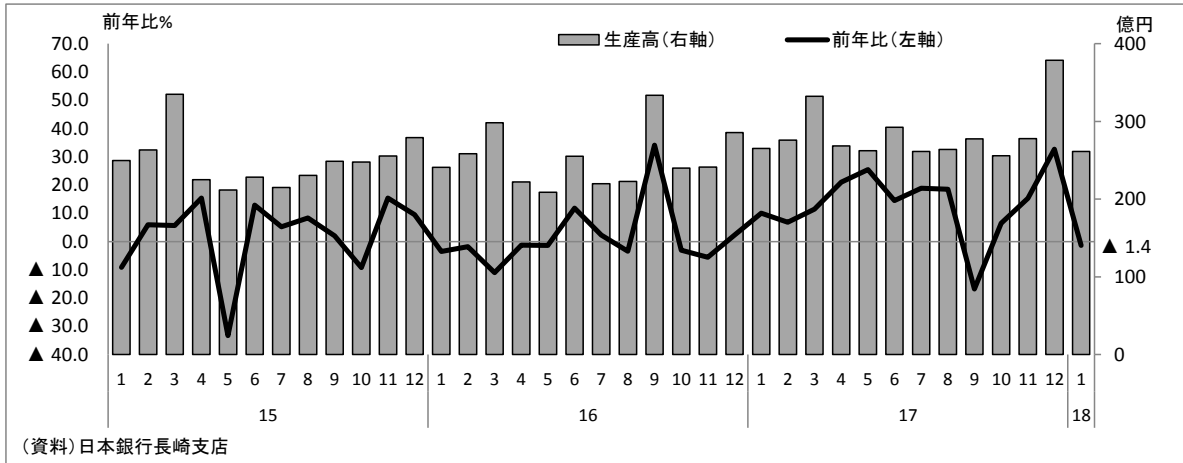
【造船生産高】



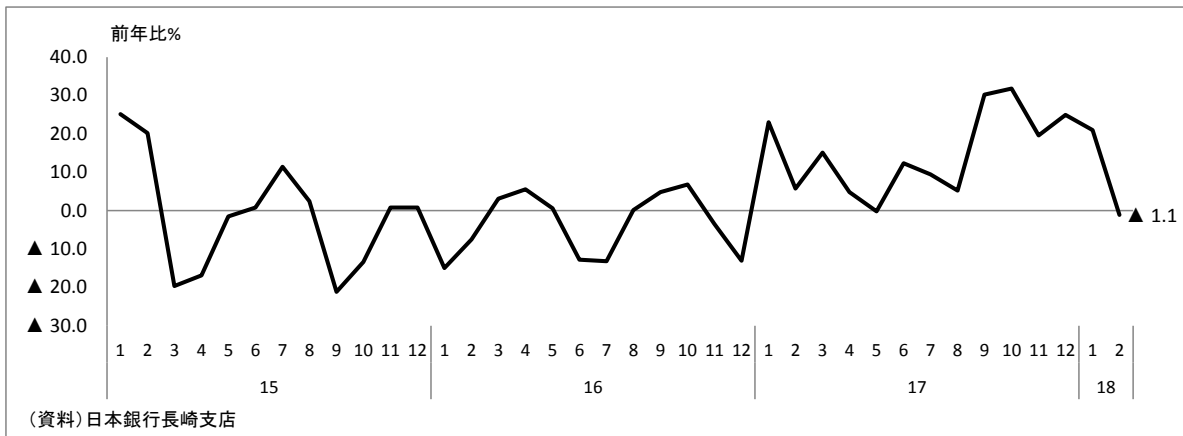
【造船月末受注残】



【機械・重電生産高】



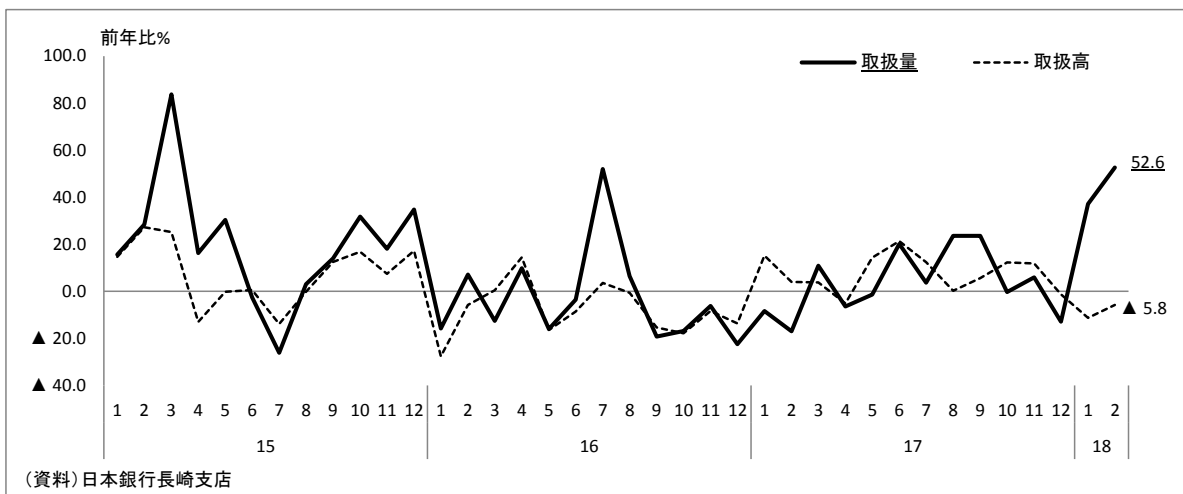
【電子部品等生産高】



(水産業)

県内主要魚市場の取扱いをみると、持ち直しの動きが続いている。

【県内主要魚市場取扱量・取扱高】

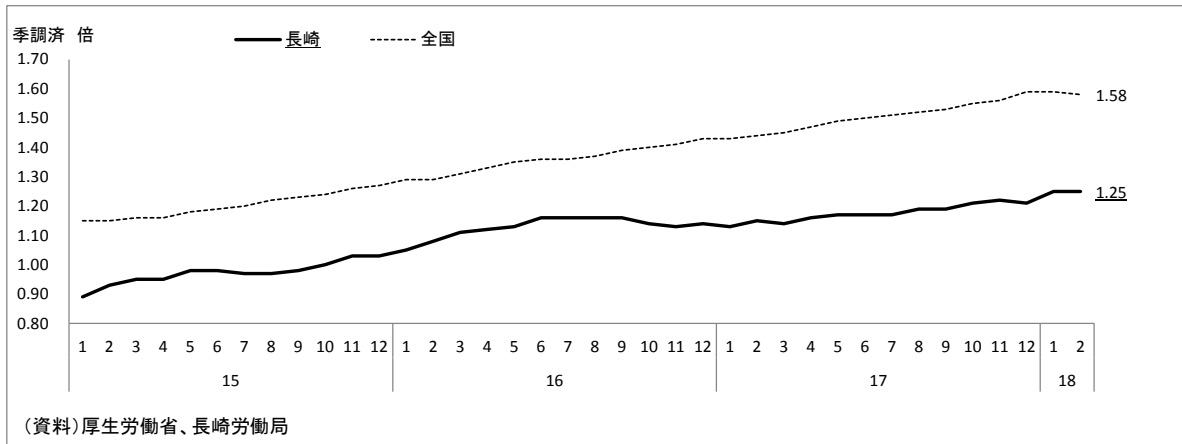


(7) 雇用・所得

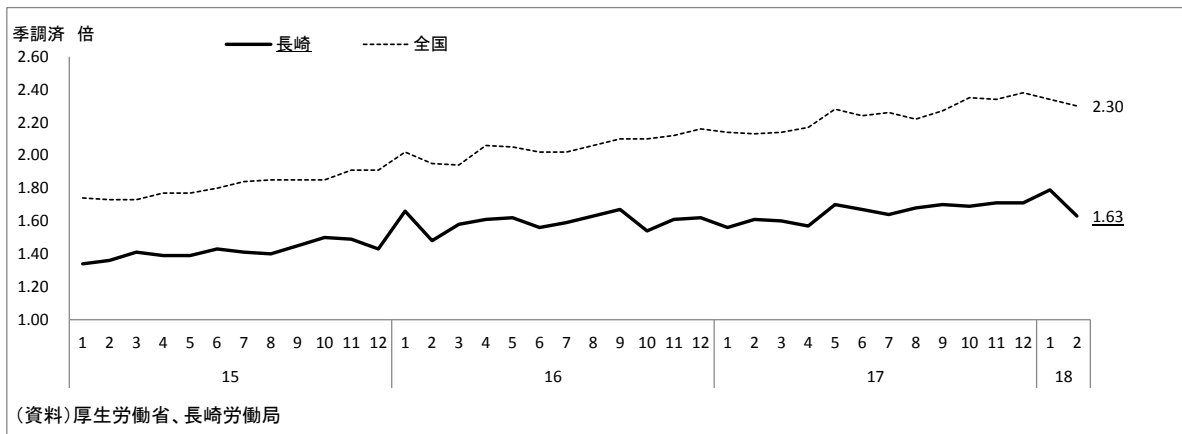
雇用・所得環境をみると、労働需給は改善が続いており、人手不足感が強まっている。雇用者所得は持ち直している。

有効求人倍率（2月）は、1.2倍台で推移している。新規求人倍率（同）は1.6倍台となっている。雇用者所得（12月）は前年比増加した。

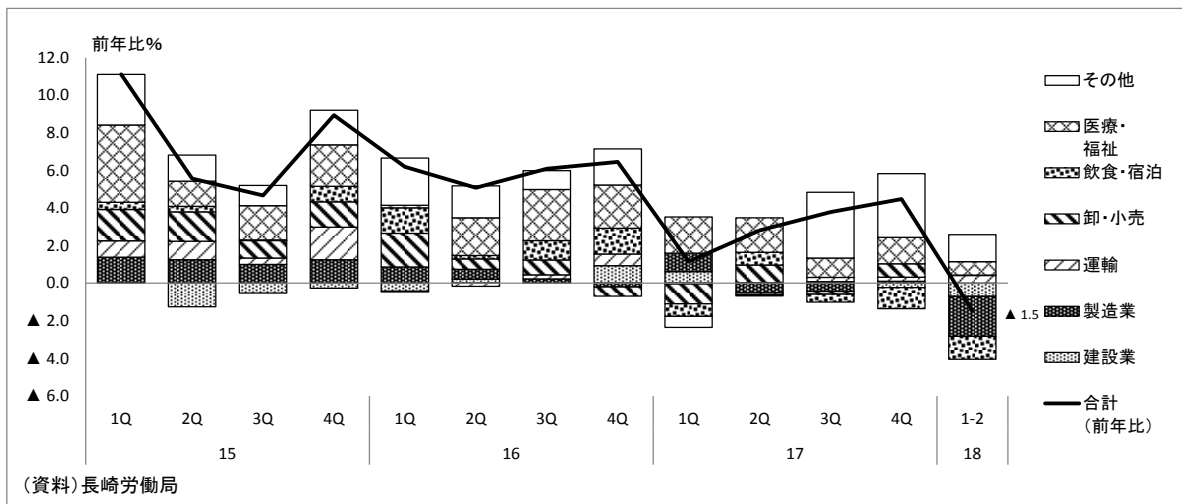
【有効求人倍率・季調済】



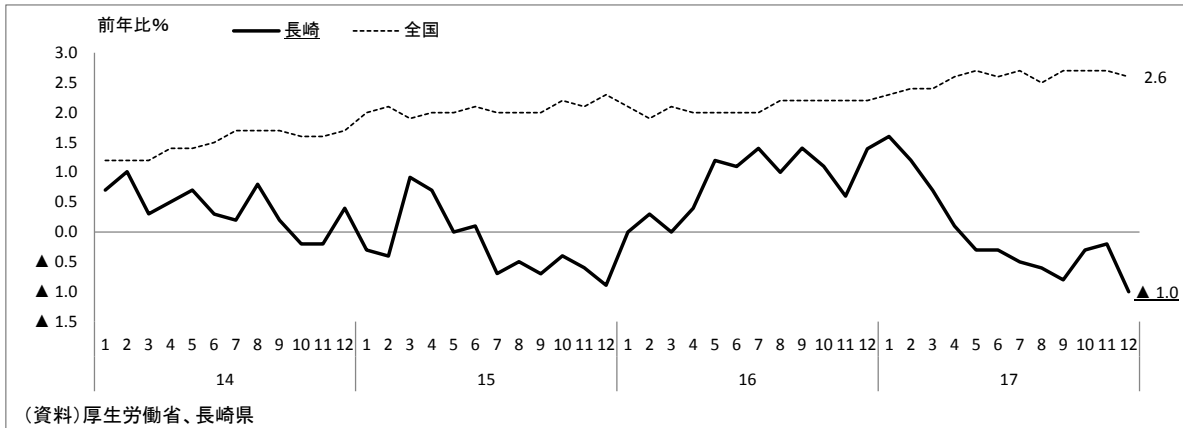
【新規求人倍率・季調済】



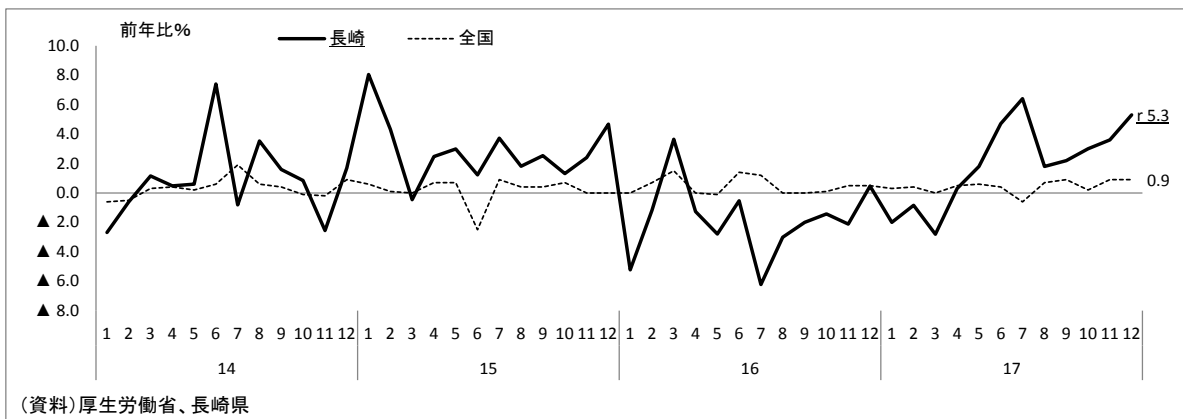
【新規求人（パート含む）の業種別寄与度】



【常用雇用指数】

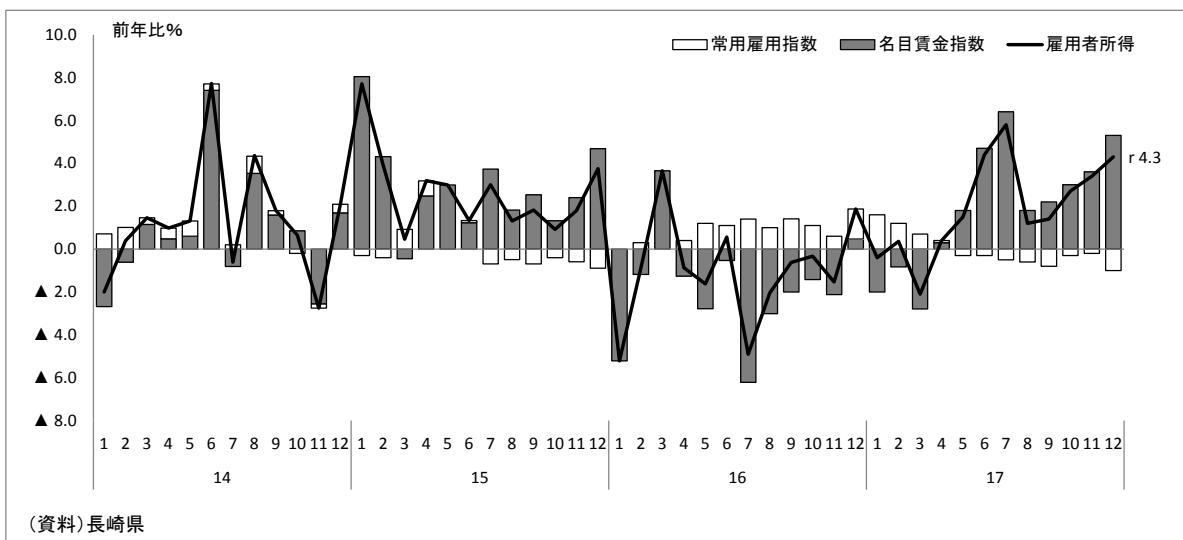


【一人当たり名目賃金】



(注) ・一人当たり名目賃金は、毎月勤労統計調査の「名目賃金指数」。

【雇業者所得（常用雇用指数×名目賃金指数）】

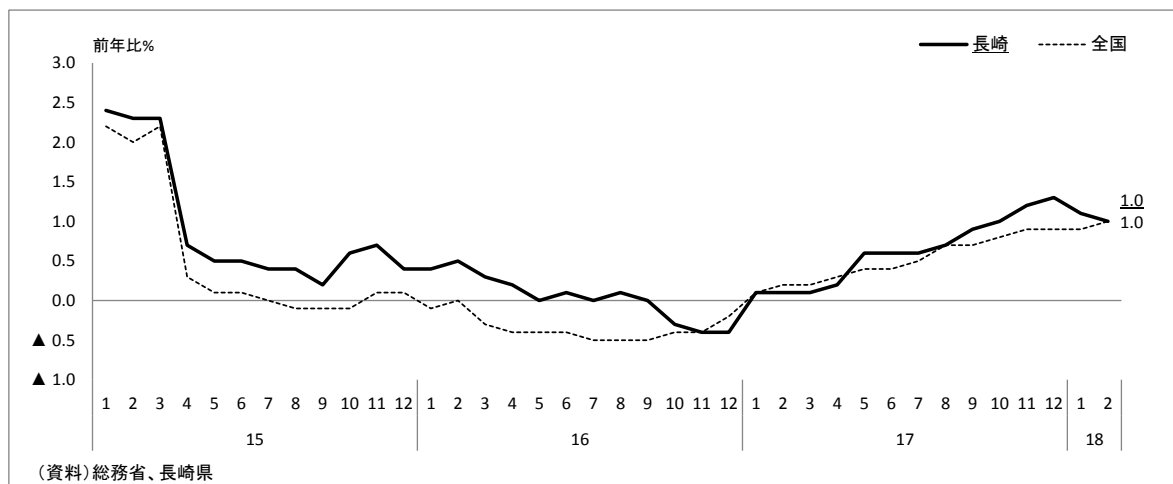


(注) ・雇業者所得は、事業所規模5人以上の事業所における名目賃金指数と常用雇用指数を乗じて算出。

(8) 物価

消費者物価指数（2月、生鮮食品を除く総合、長崎市）は、前年を上回った。

【消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）】

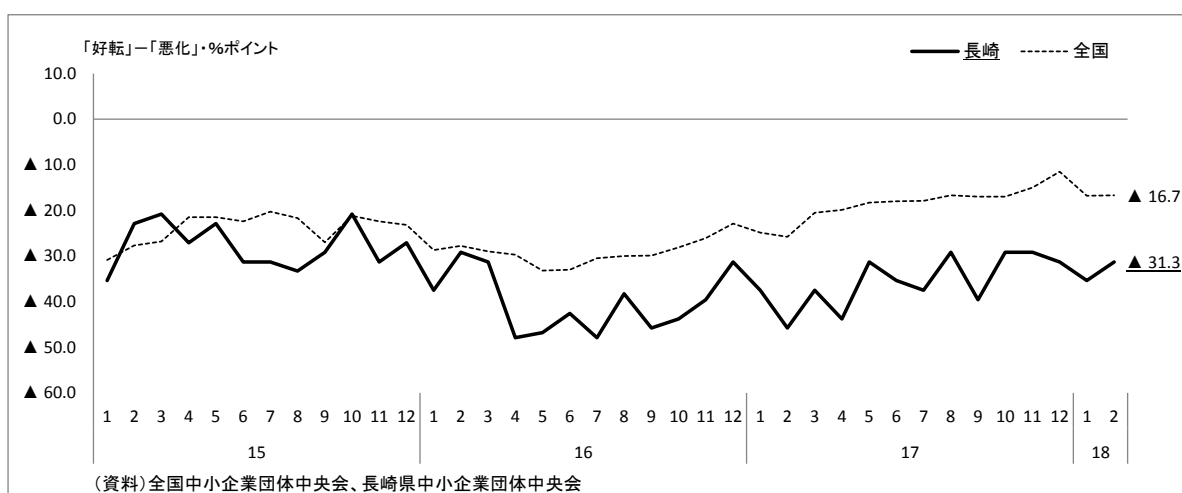


(注) ・15/12月以前は2010年基準、16/1月以降は2015年基準。

(9) 中小企業の動向

中小企業の景況感は、弱い動きとなっている。

(参考)【中小企業の景況指数】



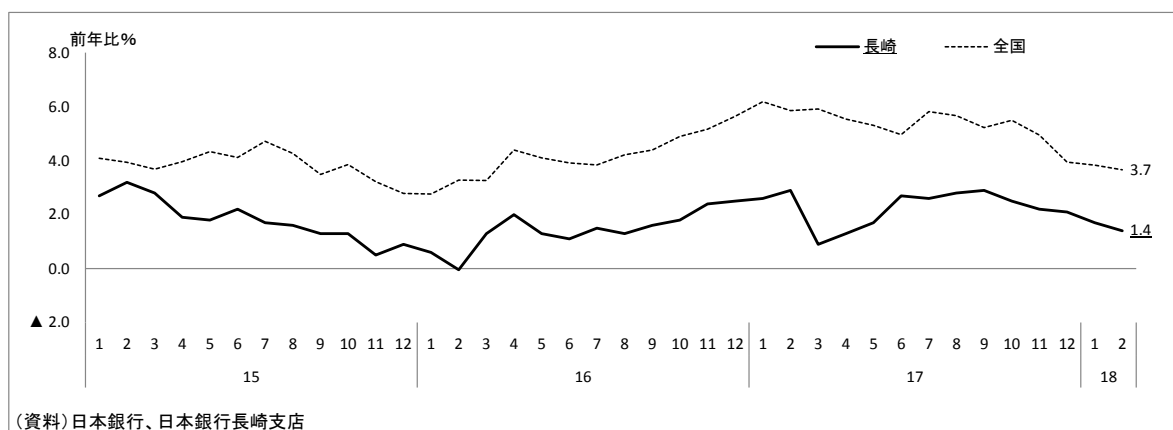
2. 金融事情

(1) 預貸金動向

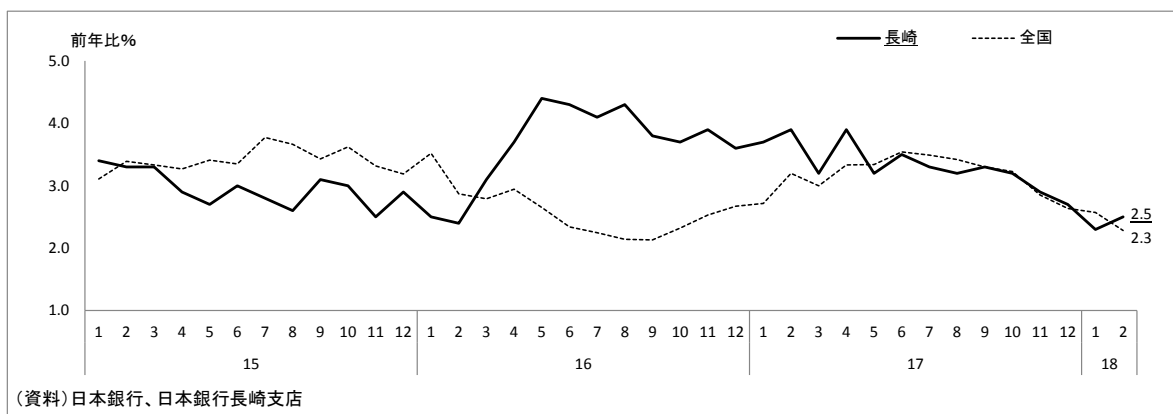
県内主要金融機関（県内所在店舗）の実質預金（2月、含む譲渡性預金）は、法人・個人預金を中心に、前年比+1%台半ばで推移している。

県内主要金融機関（同）の貸出金（同）は、法人向けや個人ローンを中心に、前年比+2%台半ばで推移している。

【実質預金＋譲渡性預金（末残）】



【貸出金（末残）】

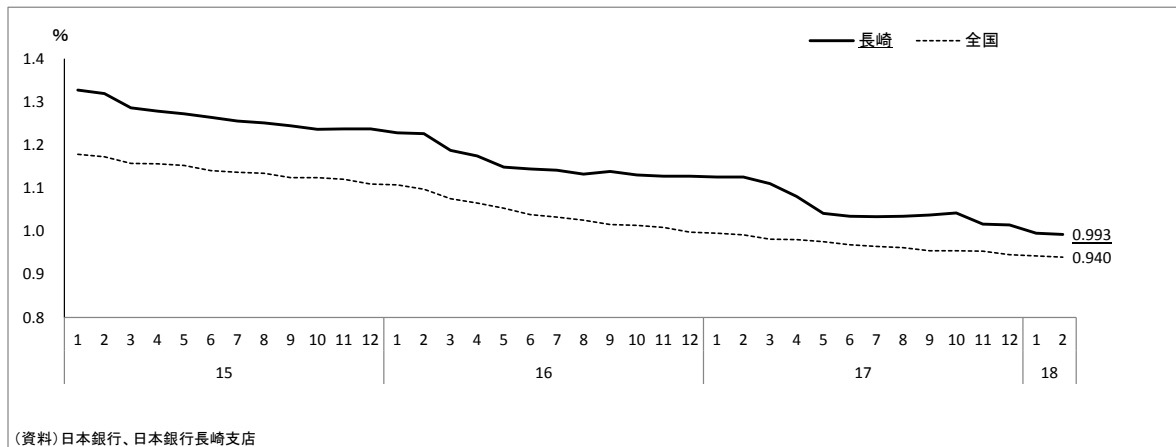


- (注)
- ・国内銀行（ゆうちょ銀行等を除く<以下同じ>）および信用金庫の県内店舗（全国は、国内銀行のみ）。
 - ・銀行勘定を集計。ただし、国内銀行については、オフショア勘定を除く。
 - ・実質預金は、預金から切手手形を控除したもの。
 - ・貸出金については、中央政府向け貸出を除く。

(2) 金利動向

貸出約定平均金利（2月、ストック・総合、地元行ベース）は、前月を下回った。

【貸出約定平均金利（ストック・総合）】

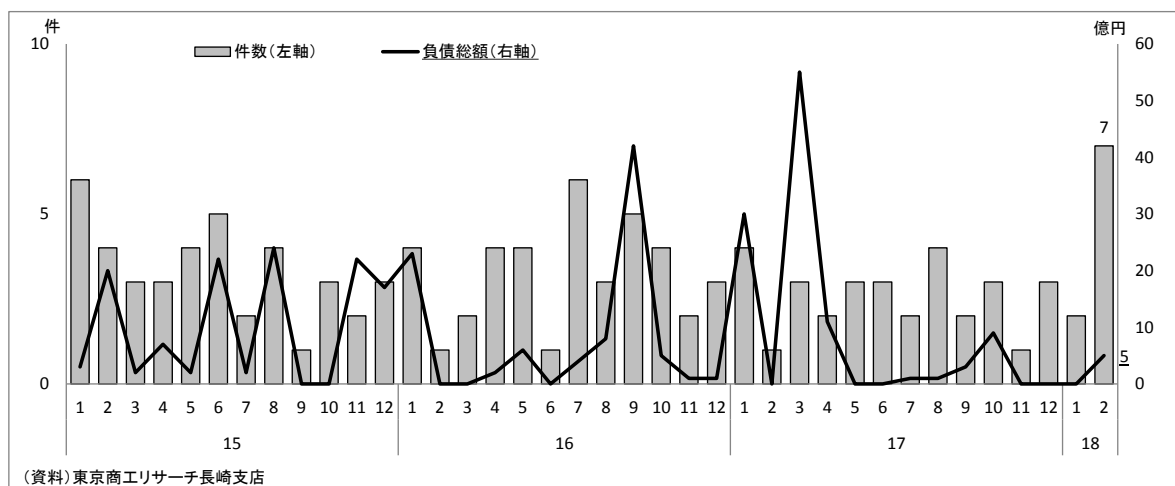


(注) ・国内銀行（ゆうちょ銀行等を除く。長崎は、県内に本店を置く国内銀行。）の貸出金利を貸出金残高で加重平均したもの。

(3) 倒産

県内企業倒産（2月、負債総額10百万円以上）は、落ち着いた動きが続いている。

【企業倒産（件数、負債総額）】



(注) ・負債総額は億円未満切り捨て。